

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

由良町立由良小学校
教諭 船木洋介

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」であり、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

これらの研修を通して、教員として持つべき視点が増え、視野が広がったことを感じる。研究に取り組んだ社会科に関してだけでなく、授業力向上トレーニングでは他教科における教材分析・教材研究の視点を数多く得ることができた。研修員生活が始まってまもなくの頃に受けた詩の授業では、授業づくりの基本を学ぶとともに、自分の未熟さを痛感し、学び続けることへの意識が高まった。また、研修員同士で模擬授業を行うたびに新たな視点を得て、次の模擬授業ではそれらを応用することができたため、模擬授業を重ねるごとに研修員全員の授業力が高まっていったと感じる。模擬授業を通して自分の授業づくりにおける課題と、他の研修員の授業づくりにおける課題に関する共通点が見つかることも多く、全体での研修時間以外にも、研修員同士で集まって課題解決に向けた教材分析・教材研究を行うことができた。

学校組織開発力向上トレーニングでは、学級経営、さらには学校経営に関することなど、昨年度までの自分にはなかった視点が増え、学校組織の中で自分の果たす役割に気づかされた。特に、ミドルリーダーとして学校経営にどのように関わっていくかについての研修は、異なる地方、校種、立場、年齢の研修員たちの経験を聞き、それぞれの実践を踏まえながら進められたため、物事を多面的・多角的に捉えることができるようになった。

この1年間で指導主事や研修員等、多くの人との交流を通して身につけた視点や力を生かし、ミドルリーダーとして学校教育の抱える今日的な課題に対応していくのはもちろんのこと、自ら学び続ける姿勢を示し、若手教員たちの手本となっていきたい。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書、資料の作成

所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」	
修養	<ul style="list-style-type: none"> ■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修、10年経験者研修聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修

図 研修の概要